

学校番号				
3	4	0	0	4

令和6年度 札幌市立日章中学校 学校関係者評価書

令和7年(2025年)3月17日
札幌市立日章中学校

1 本校の学校教育目標

日にあらたに 日々にあきらかに	
高い理想を求める生徒(意)	◇わたしたちのため ・進んで学ぶ生徒
たくましい知性をみかく生徒(知)	・思いやりのある生徒
美しい友情に結び合う生徒(情)	・ねばり強い生徒 ・いのちを大切に する生徒

2 令和6年度の重点目標

<p>(1)「日章基盤」の盤石化 ～ 伝統の積極的継承・発展を目指す</p> <p>①学校教育目標→目指す生徒像(わたしたちのため)の具現化、基本軸の共有 ↳小中一貫した教育における『日章中学校区 目指す子ども像』と連動</p> <p>②三つの伝統(日章のあいさつ ボランティア 合唱) ↳日章のあいさつ(あかるく いつも相手より さきに つたえる)</p> <p>③生活の三本柱(時間を守る 身なりを整える 正しい言葉遣い)</p> <p>④日章基盤を支える「発達維持的生徒指導」「課題予防的生徒指導」を重視する。</p> <p>⑤学校教育全般を通して、「自律・他者尊重・創造」の感度を高める。 ・教師はより「生徒指導→生徒支援」へ。生徒はより「他律→自律」へ。 ↳校則の見直し、子どもの意見表明権の保障など</p> <p>⑥A・A・Rサイクルと課題探究的な学習の実施 ・[見通し→行動→振り返り]のサイクルの実効性を求め、学びの見通しを持てるためには?自己選択・自己決定できるようにするには?自ら成長や学びに進捗を自覚できるようにするには?を意識する。 ・評価、反省が具体的改善につながり、生かされるための方途を求める。 ・手段の目的化を防ぎ、目的を明確にするとともに、仮設→実行→検証のサイクルを意識する。</p>
<p>(2)「学びの質を高める」教育活動の工夫</p> <p>①きめ細やかな指導方法の工夫とICTの活用を組み合わせ、個別最適な学びと協働的な学びの実現に向けて研究・実践に努める一年とする。</p> <p>②教員一人一人が「ICTをどう使うか、何のために使うか」を考え、活用の質的改善を図る。</p> <p>③校内研修会の計画的な企画運営、教科会、授業交流、各種アンケートの活用を通して、教育活動の弛まぬ改善に努める。</p> <p>④指導と評価の一体化をさらに進め、授業の質的改善、観点別評価の見取りや評定への総括における実践的研究を継続する。</p>
<p>(3)「生徒支援型の生徒指導」の推進</p> <p>①子ども一人一人が「自分を大切にされている」と実感できる教職員のかかわり。</p> <p>②子ども一人一人が「自分を肯定し、受け止める」と同時に、自分と違う「他者を肯定し、認める」学校風土づくり～「相互承認」の感度を高める。</p> <p>③「決まり・ルール指導」から「自律・他者尊重」、「モラル&マナー」の生徒支援へ</p>
<p>(4)「小中一貫した教育」の推進とCS事業の土台づくり</p> <p>①本校が中心となって、パートナー校とともに、新たな組織と年間計画に基づき、推進に努める。推進組織と4つのワーキンググループを設定。</p> <p>②別紙「日章中学校における関連事業」においては、職員会議提案段階で、そのねらいに小中一貫した教育の視点を盛り込み、意味づけと価値づけを明確にする。</p> <p>③パートナー校合同研修会を実施。乗り入れ授業とグループワークを実施する。</p> <p>④推進体制を確立し、小中の全職員が所属する組織を創設する。</p> <p>⑤札幌研事業春の研究集会において合同研修・研究を推進する。</p> <p>⑥令和8年度CS事業実施に向けた話し合いとパートナー校との連携。</p>
<p>(5) 保護者・地域との有機的な連携構築</p>
<p>(6) いじめ対応について</p>

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価と改善に向けた方策		学校関係者評価	
		達成状況	改善に向けた方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
人間尊重の教育	生徒理解を基盤とした生徒に寄り添う生徒指導が展開されているか。	B	○発達支持的生徒指導、課題予防的生徒指導の実践を目指すとともに、不登校生徒、集団不応答生徒に対する支援を組織的、計画的に推進する。 ○生徒が日頃から相談しやすい関係、環境づくりを目指す。また、学校・家庭・地域がつながり、生徒が「自分が大切にされている」という実感をもって、安心して生活できるような支援を行えるように努める。	◎	◎
	生徒がいつでも相談できる体制が整えられているか。	B		◎	◎
	生徒たちによる主体的な学校づくりが進められているか。	A	○全校でいじめについて考える「友達を大切にしようプロジェクト」や、伝統を継承するためにその意義について考える「学校づくりプロジェクト」が本校の学校づくりの特色となっている。この取組を基盤とし、学校環境づくりを自分事として捉えられるような生徒の主体的な態度を育てていく。	◎	◎
	生徒の基本的な生活習慣が確立されているか。	A	○校内生活において、生徒は意識を高くもって生活している。家庭と協力して生徒の生活習慣を見直し、より良いものとなるように支援する。	◎	◎
	社会に開かれた教育課程が編成、実践されているか。	A	○学校だよりの発行と学校ホームページの定期的な更新によって、情報の公開を進める。 ○行事、授業の公開を通し、保護者、パートナー校の6年生へ情報の公開を継続していく。	◎	◎
学校関係者評価委員による意見	行事などで学校を訪問した際には生徒はとても気持ちのよい挨拶をしており、好印象である。不登校が多いと聞いているが、別室登校や担任の空き時間に登校してもらい話をするなど生徒の状況に応じた対応がされている。先生方は生徒のために頑張っており取り組んでくれている。学校祭のテーマに「他者の個性を認め合う」という要素があったが、生徒達で考えたのはすごいと思う。Bの評価は、現状に満足せずより良くしていきたいという評価と受け止め、適切と判断した。				

分野	評価項目	自己評価と改善に向けた方策		学校関係者評価	
		達成状況	改善に向けた方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
学び力の育成	充実した日々の授業実践が行われているか。	B	○校内研修会や教科会による研修が進められた。「分かる・できる・楽しい」授業実践を目指してこれからも研鑽していきたい。 ○個別最適な学びの視点からも少人数授業・習熟度別授業を効果的に取り入れていきたい。	◎	◎
	生徒の「学び」の習慣づくりに向けての取組が効果的に成されているか。	B	○生徒が見通しをもって学習に取り組めるように継続して支援していく。生徒にとってより効果的な取組となるよう、教科や学年など組織的で計画的な活動となるよう修正・改善していく。	◎	◎
	総合的な学習の時間の充実が図られているか	A	○3年間の系統性をもった「総合的な学習の時間」の計画に基づき、学習の基盤となる資質・能力を身に付けられるようにする。 ○保護者や地域へ向けた積極的な情報発信を行い、多くの方に発表会に足を運んでもらう。	◎	◎
学校関係者評価委員による意見	ICTを活用しながら、生徒の個に応じた学習が行われている。スライドなどを作り、発表するような授業を小学校で参観させてもらったが、小学生とは思えないくらい上手に発表していた。一方では、小学校時代からの学習困難を抱えたまま中学校に入学する生徒も少なからずいるが、教科担任制である中学校の授業は難易度も高くなり、進み方も早いため、ますます苦手意識をもってしまっているのではないかと感じる。そのような生徒が参加できるような、工夫が必要であるが、先生方の準備や手間を考えると大変だと思う。評価・改善策とも適切と判断した。				

分野	評価項目	自己評価と改善に向けた方策		学校関係者評価	
		達成状況	改善に向けた方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
豊かな心の育成	一人一人の生徒に役割と居場所が与えられているか。	B	<ul style="list-style-type: none"> ○人間尊重の教育を通し、多様性を認め合える学校づくりに努める。 ○教育活動の中で自分が必要とされていることを実感できるような機会をつくり、自己有用感が高められようにする。 	◎	◎
	教育活動全体を通して道徳性の涵養と道徳の時間の充実が図られているか。	A	<ul style="list-style-type: none"> ○別業を活用し、教科も含んだ学校教育活動全体で道徳教育の推進を目指す。 ○「道徳」22項目と実生活や実社会を結びつけて、体験的な学習を取り入れながら道徳性の涵養を目指す。 	◎	◎
	特別活動を通して生徒の社会性が醸成されているか。	A	<ul style="list-style-type: none"> ○学校・学年・学級活動において、それぞれの役割、活躍の場を保障し、責任をもって成し遂げられるように支援しながら、達成感や充実感を味わえるよう努める。 ○「主体的かつ協働的」に取り組める特別活動を計画し、それぞれの活動を通して、社会性が醸成されるように努める。 	◎	◎
学校関係者評価委員による意見	<p>「友達を大切にしようプロジェクト」「学校作りプロジェクト」など学級ごとに話し合い、全校で共有する活動が生徒会を中心に行われている。また道徳の時間を使って地域と連携したボランティア活動も行われている。花植え（3年生）・ゴミ拾い（2年生）・スノーキャンドル（1年生）など町内会や健全育成委員会のご協力をいただき、生徒と地域が繋がる場面が授業の中に設定されており、生徒が褒められたり、認められる場となっている。コロナ前には地域の除雪ボランティアも有志で行われていた。学校だけではできないことを地域でお手伝いしてきたいと考える。</p> <p>道徳についてはボランティア活動を取り入れるなど、座学だけではなく体験的な活動を通して道徳性の涵養を目指すことは大切である。生徒の様子から心身共に健康に育っていると感じているので評価・対策共に適切と判断した。</p>				

分野	評価項目	自己評価と改善に向けた方策		学校関係者評価	
		達成状況	改善に向けた方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
重要指標	生徒たちは楽しく学校生活を送っているか。	A	<ul style="list-style-type: none"> ○8割程度の生徒が「毎日学校へ行くことが楽しい」と感じている。今まで通りの安心・安全な学校を維持しながら、より魅力ある学校づくりを目指す。 ○協働的な学びと個別最適な学びを取り入れた授業実践を目指すことで「学習が楽しい」となる生徒を増やす。 ○小中一貫した教育の推進を軸に中学校入学の壁を取り除き、中学校生活への期待や希望がもてるような教育活動を目指す。 	◎	◎
学校関係者評価委員による意見	<p>8割以上の生徒が「毎日学校に行くことが楽しい」と感じていることから、日章中学校の教育内容が生徒にとって良いことが伺える。学習面の遅れがや苦手意識を少しでもなくすことによって、さらに学校が楽しいという生徒が増えるのではないかと感じる。</p> <p>小中一貫した教育として、パートナー校同士の教員の交流のみでなく、生徒会役員と児童会がオンラインで交流し、お互いの良さを認め合う活動もとても良いと思った。</p> <p>以上のことから評価・対策ともに適切と判断した。</p>				